

# R7 地域生涯学習活動実践交流セミナー

## 後志管内のコミュニティ・スクールと地域学校協働活動 の実際

～管内の現状を切り口に社会教育行政の携わり方を探る

～

---

寿都町教育委員会 浦中 龍一

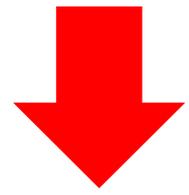
---

# コミュニティ・スクールにおける社会教育行政の役割や可能性とは？（今年度の着眼点）

そもそも  
コミュニティ・スクールって!?



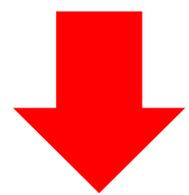
子どもたちの成長を  
「学校」 & 「地域」 & 「行政」  
社会総がかりで支えていこう！



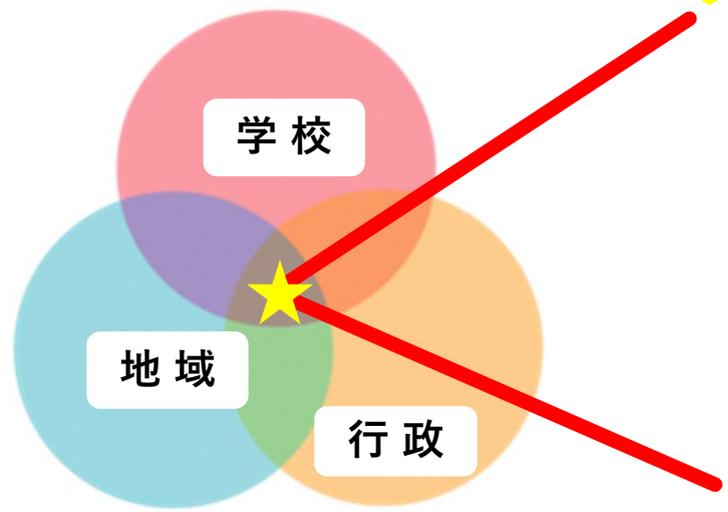
各自治体の  
学校運営協議会規則では!?

- ・ 学校運営協議会の設置
- ・ 委員の任命
- ・ 研修会の実施
- ・ 庶務

教委としての  
「最低限の役割」は  
明記されている



コミュニティ・スクールにおける  
社会教育行政の役割とは!?



### 社会教育の「役割」・「強み」・「特徴」

**地域社会とのつながり**

**多様性・柔軟性・信頼関係**

★ 社会教育行政（担当者）として、どのような関わり方ができるのかを探っていく！

# どのような手段で社会教育行政の携わり方を探るのか？ (考察方法)

今年の目標！

社会教育行政の携わり方の理解



## 1 知識の向上

社会教育行政がコミュニティ・スクールに携わる意義や役割についての知識の修得  
⇒ 専門家による講義



## 2 探求力の向上

社会教育行政の視点から管内の評価点や課題点へのアプローチ方法について考察  
⇒ 実地研修

## 3 技能の向上

社会教育行政がコミュニティ・スクールに携わるうえで必要となる実践力の修得  
⇒ 実践力養成講座  
「シリーズ〇〇の技術」

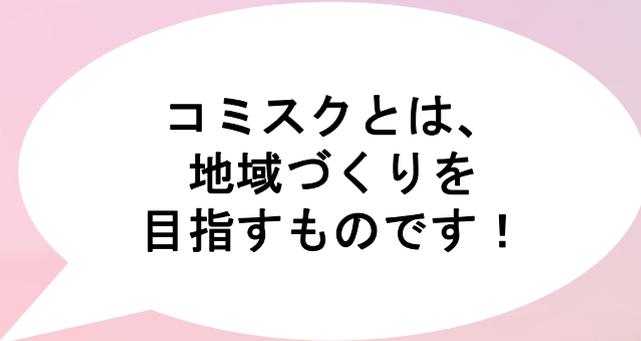


電話対応コンテスト

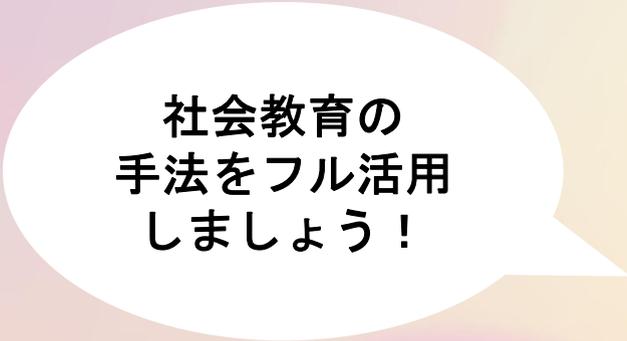


ファシリテーションコンテスト

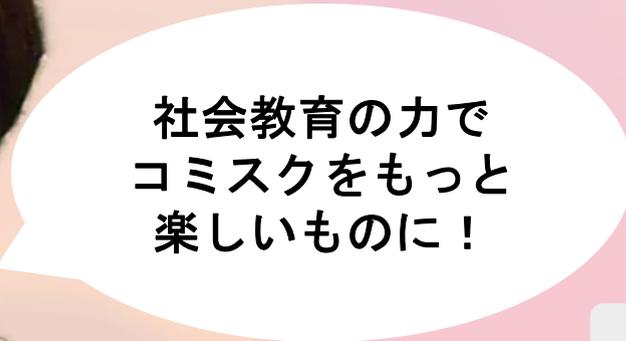
# 御三家から学ぶコミスクにおける社会教育の携わり方を大公開！



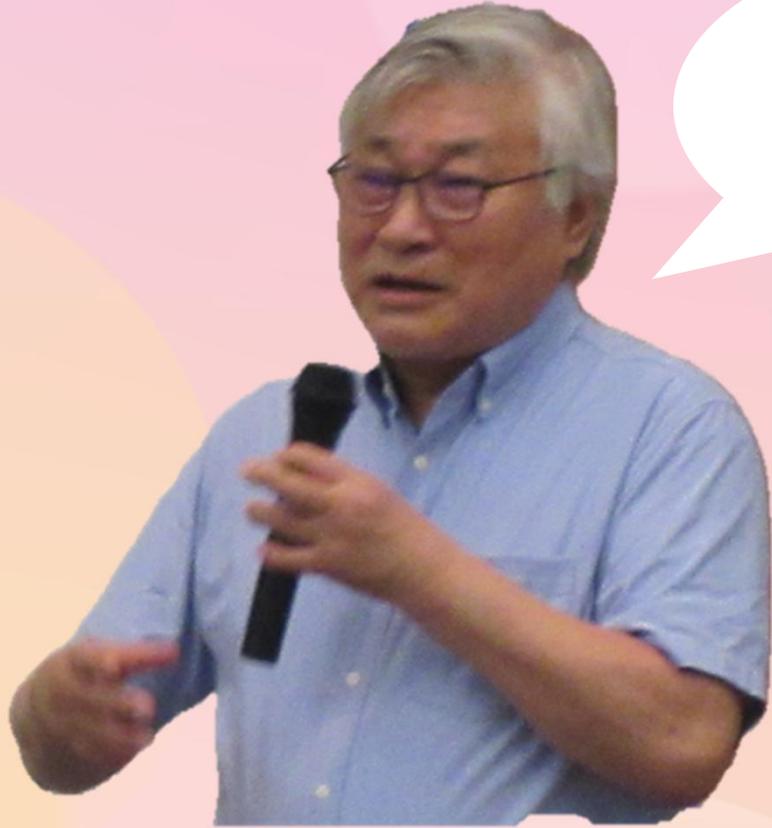
コミスクとは、  
地域づくりを  
目指すものです！



社会教育の  
手法をフル活用  
しましょう！



社会教育の力で  
コミスクをもっと  
楽しいものに！



元宇都宮大学教授 廣瀬 隆人 氏



国立教育政策研究所 志々田 まなみ 氏



栃木県立真岡工業高校 井上 昌幸 氏

# 第1回管内研修会の振り返り

## 基礎用語の確認！

- ★コミュニティ・スクール
- ★地域とともにある学校
- ★学校を核とした地域づくり



コミュニティ・スクール  
= 地域づくり

人づくり

つながり

地域づくり



## 進み具合には “ステップがある”



## やり方は “みんな違ってみんないい”



# 解説



元宇都宮大学教授 廣瀬 隆人 氏

## 第1回研修会のまとめ！

# 学校支援は「手段」、地域づくりこそがCSの目指すところ！

# 子どもの学びを軸とした子どもと大人の「学び」と「成長」の好循環サイクル

## 地域

### 地域とともにある学校づくり

「寿都愛」



潮路小特別支援「陶芸体験」

「分厚い体験」



寿都中1年生「ホッケの調理実習」

「笑顔」&「元気」



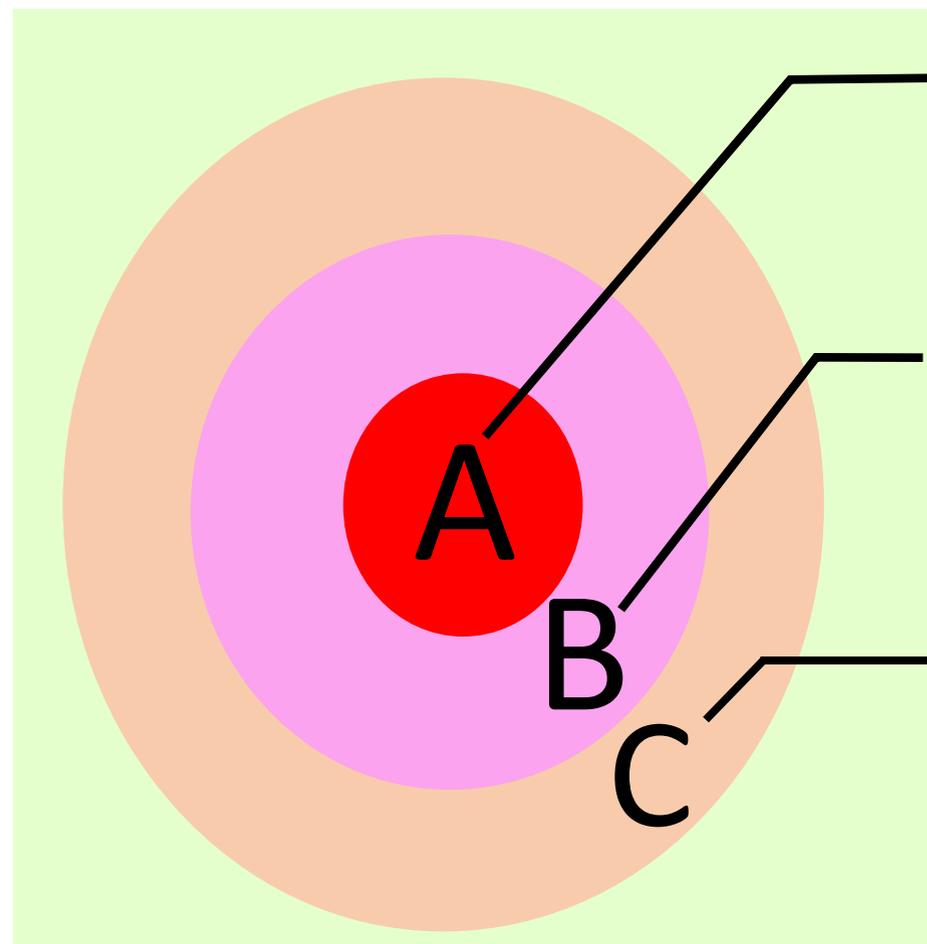
寿都小遠足「ぐるっと寿都」

「感謝」&「敬意」



潮路小1・2年生「音楽交流会」

### 大人から子どもへの影響



A：地域のリーダー



成長



B：リーダーを支える人



成長



C：地域の活動に無関心な人



子どもからの  
影響（学び）



### 子どもから大人への影響

### 学校を拠点とした地域づくり

生きがい



担い手育成



生涯学習の実践の場



共生社会



学びを通じた  
「ひとづくり」  
「つながりづくり」  
「地域づくり」



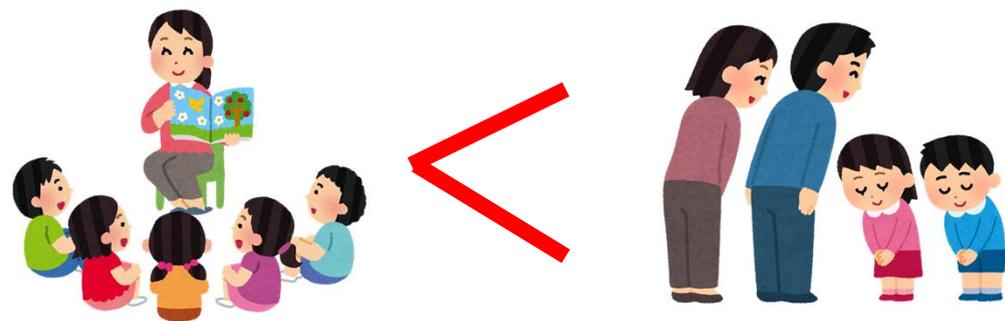
仲間づくり



地域の教育力の向上

## 第2回管内研修会の振り返り

メインは、青少年教育ではなく、**成人教育**！



### 社会教育行政のお仕事



計画への位置づけ



研修会の開催



大人の意欲の醸成

解説



国立教育政策研究所 志々田 まなみ 氏

第2回研修会のまとめ！

社会教育のノウハウを生かすことができれば、学校運営協議会がもっと楽しいものになる！

## 取り組みを価値づける

✓教育局への情報提供

✓報道機関への情報提供

✓学校内の掲示物

✓ホームページ、ブログ

✓学校だより、CSだより

✓目指す姿の共有





栃木県立真岡工業高等学校 井上 昌幸 氏

# 解説

～管内の社会教育職員が抱える会議の悩み～

- 1 「報告・説明事項」中心の会議
- 2 発言する人が少ない会議
- 3 雰囲気がおもた～い会議

第3回研修会のまとめ！

これまで培ってきた社会教育のチカラがCSの充実に貢献！

# 「双方向性・対等性」のある会議を運営するためには？

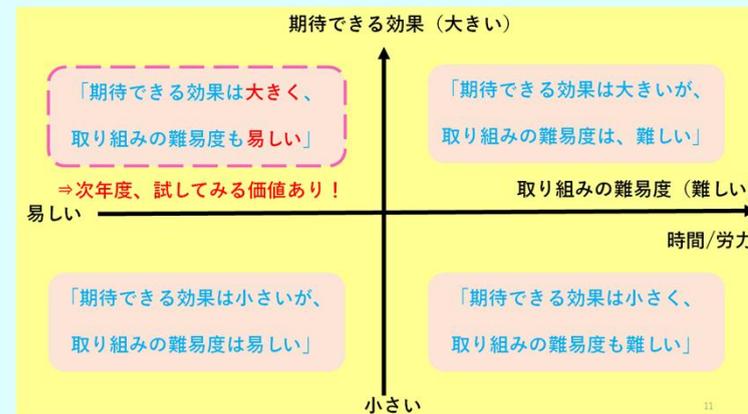


ポイント

## 「熟議でみんなが自分事になるようにファシリテート」



齊藤会長



社会教育の手法による支援

ファシリテートを実施

口の字スタイルからの脱却

社会教育が携わることで・・・

脱！報告・説明事項中心の会議 ✕ みんなが主役 ✕ 参加しやすい会議の雰囲気

# ☆ 次年度の展望 ☆

1

検証事項の検討！



2

モデル自治体による検証・共有！



3

管内全体で実践！



後志管内のコミュニティ・スクールと地学協働の「前進」に向けた展望（R5～R9）

3 各自治体の取り組みを一般化したモデルを作成！



プッシュ！

「Shiribeshi」モデルとは・・・

各自治体の取り組みを一般化して、「誰が携わっても」、「どの自治体でも」同じような水準を維持して取り組みができるように整理したもの（「手引書」をイメージ）。

5 「Shiribeshi」モデルの反動&教委の強いアクセル

4



1 令和6年度 車両点検 = 「課題の発見」



2 令和7年度 車両整備方法の習得 = 「改善策の検討」



6

前進

後志管内の取り組みが前進！